

# SSG構法

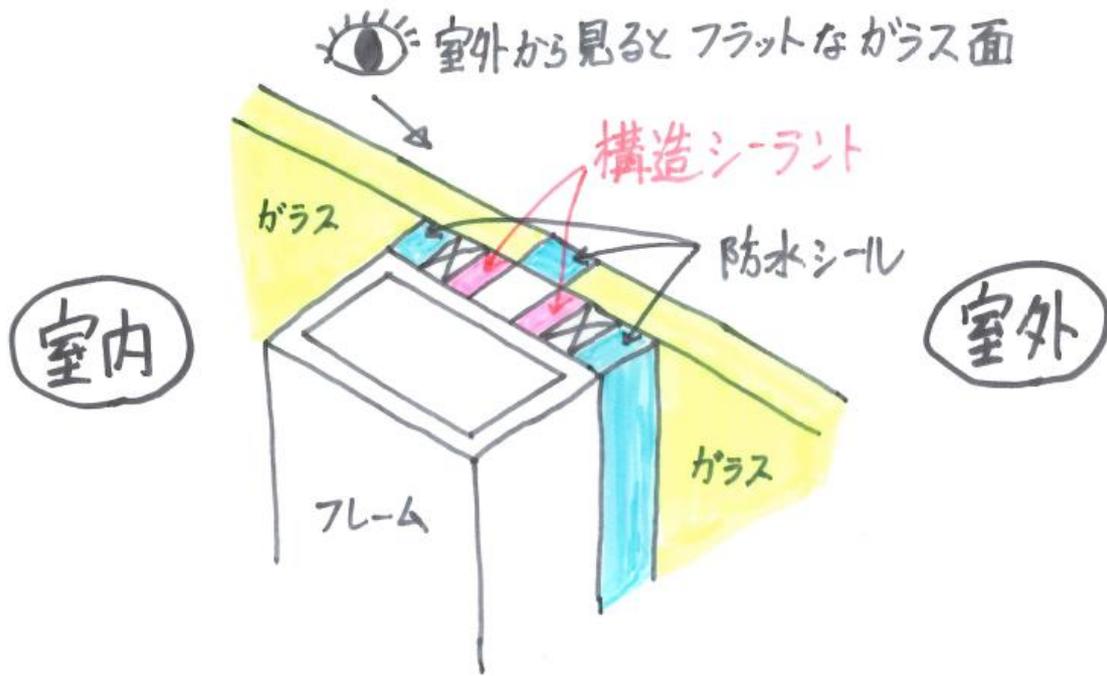


図 SSG構法のガラス面の構成

## 出題問題

平成28年度 問題17	
建築物の外装の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	
1	エアフローウィンドウは、熱負荷を軽減するシステム
2	SSG構法は、ガラスを室内が見えないフラットなガラス面を構成する
3	カーテンウォール工事によることにより、雨水を重力
4	メタルカーテンウォールに
<p><b>「過去問」については、(公財)建築技術教育普及センターとの過去問の使用許諾条件により、「会員講座」のみでの公開としている。</b></p> <p><b>ここでは、参考として過去問が見えないようにしている(会員講座では全問題を公開)。</b></p>	
解答 (正解3)	
1	<p>○ エアフローウィンドウとは、二重ガラス間に空調空気を通すことで冷眠房することである。一般に、窓からの熱損失又は熱流入は大きい。その対策として、二重ガラス間にブラインド等の遮光装置を設置し、空調空気を通すことで、ペリメーターゾーン(窓等からの熱損失・熱流入)の熱負荷を軽減するシステムである。</p>
2	<p>○ SSG構法とは、ガラスを室内側に設置したフレームに構造シーラントを用いて接着することである(用語解説:15.計画各論総合@SSG構法参照)。室外側からは、ほとんどサッシが見えないフラットなガラス面を構成できる利点がある。</p>
3	<p>× フィルドジョイント構法(ダブルシーリング構法)は、外装材の接合部分の水密確保のため、止水面を2層設ける構法である。設けた「外装材の接合部分の水密性能を確保するため、内外の空気圧を等圧にすることにより、雨水を重力で排水するもの」は、オープンジョイントの説明である(用語解説:15.計画各論総合@フィルドジョイント&amp;オープンジョイント参照)。</p>
4	<p>○ メタルカーテンウォールにおけるマリオン方式(方立方式)は、マリオンを階高上下間に取り付けて、そこにガラス等を固定する方式である。このマリオンは、地震時の変形や、日射等の熱により膨張・収縮するので、ジョイント部をシーリング材等により、変形に対する追従させる機構が必要である。</p>